

メンタル・スペース理論と過去・完了形式：日本語 と韓国語の対照

曹, 美庚

広島修道大学人間環境学部：助教授：日韓対照言語学、異文化コミュニケーション論

<https://hdl.handle.net/2324/6055>

出版情報：2003-06-30. 広島修道大学総合研究所
バージョン：
権利関係：

第4章 「ルほうがいい」と「タほうがいい」

第1節 はじめに

「ほうがいい」形式に関しては、他のムード形式とともに言及されることはあっても、その構造と意味についての詳細な記述を行った研究はあまり見当たらない。一般に、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の両形式は意味的対立を持たず、未実現事態についての選択に関するコメントを表すとされている。しかし、認知文法での考え方は、いかなる形式の違いであっても、それは意味の違いを反映しているとする。したがって、いかなる明示的な(表層的な)表現の相違も、事態に対する話者の違った見方、違った解釈から生じていると考えるのである。

本章では、この認知文法の考え方を受け入れ、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の表現とその使い分けについて考察し、両形式の間に存在する相違点を明らかにしたい。その際、メンタル・スペース理論を援用しスペース的解釈を行うことで、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の相違を明示的に提示する。さらに、実際のデータを用いて使い分けを分析することで、スペース的解釈に基づく本研究の立場を裏付けた。

第2節 先行研究

寺村 [1984] は、例(1)を取り上げながら、「タほうがいい」の「タ」を事実とつながりのない話し手の頭の中の完了と過去意識を反映するムード形式とみなし、未然のことを既に実現したかのように仮想して言いなす表現の一つであると述べている。

- (1) 今日の私の無神論は父の教育のためではない。清教徒である母への反抗からはじまったと云ったほうが正しいのだ。(遠藤周作「白

い人」寺村 [1984])

また、森山 [1997] は、「タ／ルほうがいい」を「シナケレバナラナイ、シテハイケナイ、シテモイイ、シナクテモイイ、スルベキダ」などといっしょに事態選択のムード形式として捉えている。

(2) するよりも～する方がよい。

たとえば、例(2)は事態の比較が意味の基本であり、とるべき事態を選択関係の中に位置づける表現とされる。そして、例(3)に見るように、意味関係において選択される事態は「ル」と「タ」のテンス・レベルの対立を持たないとされる。

(3) 明日学校は [休む／休んだ] ほうがいい

森山 [1997] によれば、「ル」と「タ」の対立は、意味的対立関係というより、個別事態か (例(4))、一般事態か (例(5)) のような使い分けの問題である。

(4) 飲みすぎなんじゃない。帰った方がいいわ。

(5) 多比良は、近頃は銀座の画廊の展覧会を覗いても、どうもおもしろくないと嘆き、上原は美術館へいくほうがいいとすすめた。

また、事態選択に関するコメントであるため、「*～するほうがよくな

い」のように、原則としては否定形がつかないとされている。
本章では、選択事態に対する話者の認識の相違が「ル」と「タ」の対立に現れるという立場から、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の使い分けについて考察する。その際、メンタル・スペース概念を応用することで、選択

事態に対する話者認識の相違を明示的に提示することを試みる。

第3節 「ほうがいい」の分析

3.1 「ほう」の辞典的意味

「ほうがいい」の分析を行う前に、キーワードとしての「ほう」の事典的な意味を調べてみよう。「ほう」は、方角・方向・方面の「方」であり、事物の向かうところの「側」を指す。さらに、話し手や聞き手の関心が向かうところや話し手の選択する「側」を示す。以下では森田 [1989] の『基礎日本語辞典』を参考にしながら「ほう」の意味分析を行いたい。

「ほう」は、主体と対象との関係における「ほう」と対象間の関係における「ほう」に大別できる。主体と対象との関係における「ほう」には、次の3つのものが含まれる。

- 1) 方向・場所に視点を向けるもの
- 2) 領域・分野に視点を向けるもの
- 3) 個人に視点を向けるもの

1) 方向・場所に視点を向ける「ほう」は、地理的な上下、前後、左右の方角である。方向を表す名詞「東、西、南、北…」や方向指示語「こちら、こっち…」、場所を示す名詞「空、海、端…」、人や物を示す名詞などに「の」を介して付け、「～のほう」の形でそちらの方向やその存在する場所に向かう気持ちを表す。

2) 領域・分野に視点を向ける「ほう」は、人為に関する分野、及び、ある社会を指す。「将来は法律のほうに進むつもりです」「スポーツのほうには何かご趣味でもおありですか」「天文学のほうで話題になっている奇現象」「野党のほうから動議が提出された」「人事課のほうへ提出する書類」「交通費は会社のほうで負担してくれるそうだ」などがこれに該当する。

第3節 「ほうがいい」の分析

3) 個人に視点を向ける「ほう」は、社会の代表としての個人の意である。「社長に代わって私のほうからご報告申し上げます」「先生のほうから皆に一言注意しておく」などがこれに該当する。

次に、対象間の関係における「ほう」は、A・B二者関係において、どちらかを選び指示するときに用いる。「…はBのほうだ」「…はAよりBのほうだ」の判断は、「Bのほうが…だ」と一方を指定することにつながり、「AよりBのほうが…だ」の比較表現となる。話題としている条件を満たすB側に視線を向けるという点で、方向の「ほう」と本質的には同じである。ここにも次の2つのものが含まれる。

1) 正負二つの性格や状況・行為において、主体や対象がその中庸に立たず、どちらか一方に片寄ることを表す。「ほう」はより高い程度を指す。現在の状況や欲求に合う方向を示すことは、互いに反対方向にある二者に対して、条件への適合度を比較することである。

2) 二者を比較して、より程度の上（または下）である側を判断する。「ほう」は程度の優る（または劣る）側の対象を指す。「AよりBのほうが…だ」「Bのほうがもっと…だ」の文型で、程度副詞が付けられる。

3.2 「ほうがいい」形式の前のルとタの対立

ここでは、「ほうがいい」の分析にあたって考えられるいくつかの視点を考察する。「ほうがいい」形式の前のルとタに対立があるか否か、一体型なのかそれとも分離型なのか、非現実用法と関連づけられるか否かなどの視点が主に取り上げられる¹⁾。

まず、「ほうがいい」形式の前のルとタの対立について考察してみよう。実現している事態、または実現を前提にしている事態については、「ルほうがいい」は成り立たず「タほうがいい」のみが適切な文として成立する。

このように、「実現している事態のほう」の意味で使われている「タほうがいい」を分離型と称する。この場合の「タほう」は完了した事態を話題に

しており、「ほう」の意味も視点を向ける方向性の「方」,「側」の意味で使われる。そのため、「A, Bのうちどっち?」という選択の意味, すなわち, 一つの完了事態に対する選択としての意味が強く読み取れる。

- (6) (化粧した友達を見て)

あなたはやっぱり {*化粧する／化粧した} ほうがいいよ。

- (7) (怒っている少女を笑わせてから)

あなたは怒るより {*笑う／笑った} ほうがいいよ。

(6)は、「化粧していない顔のほう」より「化粧した顔のほう」が「いいです」, または「化粧していない時の印象」より「化粧した時の印象」が「いいです」の意味であり, (7)は「怒った顔の印象のほう」より「笑った顔の印象のほう」がいいという意味に使われている。この場合の「タ」は, すでに完了している事態に対する「タ」であるため, (8)(9)に見るように結果状態の「ている」に交替できる。

- (8) (=6) あなたはやっぱり化粧しているほうがいいよ。

- (9) (=7) あなたは怒るより笑っているほうがいいよ。

この場合, 形容詞「いい」を他の形容詞に入れ替えることも可能である。

- (10) あなたはやっぱり化粧したほうが {美しい／きれい} よ。

- (11) あなたは怒るより笑ったほうがかわいいよ。

また, 「ほうがいい」を, 結合力のある一体型としての慣用表現とみなすより, むしろ程度副詞「ずっと, もっと, 遥かに」などを挿入することによって, 事態完了部分の「ほう (側)」とその評価判断である「いい」の部分に分離する「[[ほうが] [いい]]」であると見ることができる。このような

第3節 「ほうがいい」の分析

「タほうがいい」を、分離型と称する。

- (12) あなたやっぱり化粧したほうが {ずっと／もっと／遥かに} |いい
／美しい／きれい| よ。
- (13) あなたは怒るより笑ったほうが {ずっと／もっと／遥かに} |いい
／かわいい| よ。

「タほう」が「タ人のほう」の意味になるものもある。

- (14) 二人組みの男が入ってきて、赤と白のチェックのシャツを {*着る
／着た} ほうが、われわれのテーブルをのぞき込んだ。(文39)
- (15) (試験の問題用紙を配りながら)
今日の試験は {*勉強する／勉強した} ほうがより良い点を取りま
す。

上記のように、(14)では「二人の男のうちチェックのシャツを着た人のほう
が(着ている人が)」, (15)では「勉強した人のほうが(勉強している人が)」
の意味になる。また、これらは、すでに完了していることに対しての「良
い」あるいは「悪い」という判断であるため、ポジティブな評価の代わりに
ネガティブな評価を付与することも可能である。

- (16) (けんかしている二人にむかって)
二人のうち {*殴る／殴った} ほうが {もっと} わるいです。殴っ
たほうが罰則を課せられます。
(=殴った人のほうが(殴った人が))
- (17) 今日の試験は {*勉強する／勉強した} ほうがかえって不利になる
かも知れません。(=勉強した人のほうが(勉強した人が))

第4章 「ルほうがいい」と「タほうがいい」

次に、「タほう」の意味が「Aの完了結果を持ってBする」のようなタイプの場合も、「タほう」は「タ人のほう」の意味を表す。

(18) このゲームのルールは [*笑う／笑った] ほうが負けです。

(=笑った人が)

(19) ゴールのテープを先に [*切る／切った] ほうが勝ちです。

(=切った人が)

(20) じゃんけんに [*負ける／負けた] ほうが掃除当番をする。

(=負けた人が)

ここまで考察してきた「ほう」については、「ルほう」と「タほう」は基本的に対立を起こしており、「ほう」は本来の辞書的意味を保持している。また、「いい」の代わりに他の形容詞や形容動詞などを用いてポジティブな評価判断やネガティブな評価判断の表現に入れ替えることができる。さらに程度副詞などを挿入することもできる。これらは、「より価値の高い」という慣用表現としての一体型 [ほうがいい] ではなく、「A、Bのうちどちら？」という「方、側」に重みを置く選択の意味として使われる [[ほうがいい]] の分離型なのである。

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

4.1 分離型「[ルほうが] [いい]」

前節まで、既に実現した事態や先行する事態の結果を前提に、その「完了のほう」に視点を向けるという選択表現としての「ほうがいい」を考察した。ここでは、未実現事態の場合の「ほうがいい」形式の前の「ル」と「タ」の使い分けの意味記述を試みる。

「AするほうとBするほうのどちらがよろしいですか？」または「Aする

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

ほうとBするほうとCするほうと……どっちがよろしいですか？」といった選択を要求する文型が可能で、その答えとしては「～するほうがいいです」しか許されず、「タほうがいい」は不適切となる。このように未実現事態に対して「タほうがいい」を許さない「ルほうがいい」を分離型の「[ルほうが] [いい]」であると定義する。

これは話者自身の意志的な行為選択であり、「AするよりBするほうがいい」において、A、Bのいずれも未実現であることが前提になるため、当然のことながら「タほうがいい」は成り立たない。

- (21) 掃除することと買い物に行くことが残っていますが、どっちにしますか。

私は掃除するより買い物に |行く/*行った| ほうがいいです。

- (22) 花見に出かけますが、いっしょに行きますか、お家に残りますか。

私は少し疲れているので、お家に |残る/*残った| ほうがいいです。

- (23) 朝早く起きるほうと晩遅く寝るほうのどっちがいいですか。

私は朝早く |起きる/*起きた| ほうがいいです。

- (24) どっちが好きですか。

映画を見るより音楽を |聴く/*聴いた| ほうがいいです。

これらについては、「～ルほうがいい」の代わりに「～したいです（ルほうにしたいです）」を代入することができるばかりか、「～ル方を選びます」「～ル方を望みます」「ル方をすすめます」などを代入することもできる。

- (25) (=21) 私は買い物に |行き/*行った| たいです。

- (26) (=22) 私は少し疲れているので、お家に |残る/*残った| ほうを選びます。

- (27) 多比良は、近頃は銀座の画廊の展覧会を覗いても、どうもおもしろ

第4章 「ルほうがいい」と「タほうがいい」

ろくないと嘆き、上原は美術館へ {いく／*いった} ほうがいいと
すすめた。

(28) (=27) 上原に美術館へ {いく／*いった} ほうをすすめた。

同じく、「ルほうがいや(きらい)です」「ルほうが苦手です」のようなネ
ガティブな表現を用いることも可能である。

(29) (=23) 朝早く {起きる／*起きた} ほうが苦手です。

(30) (=21) 私は {掃除する／*掃除した} 方がいや(きらい)です。

また、「ルほうがいい」は(25)(26)に見るように、自分自身の事態選択行為で
あるため、自分を主語にすることも可能である。さらに、(31)のように主語を
省略(主題化)することもできる²⁾。

(31) (=22) [φ] 少し疲れているのでお家に {残る／*残った} 方がい
いです。

また、語順を入れ替えることも、「に」格をとることも可能である。

(32) 少し疲れているので [私は] お家に {残る／*残った} 方がいいで
す。

(33) 少し疲れているのでお家に {残る／*残った} 方が [私は] いいで
す。

(34) 少し疲れているので [私には] お家に {残る／*残った} 方がいい
です。

(35) 少し疲れているのでお家に {残る／*残った} 方が [私には] いい
です。

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

このような分離型では、「ほうがいい」の結合力が弱いため、「[ほうが] [いい]」のように分離し、「ずっと、もっと、遥かに」などの副詞を挿入することが可能である。

- (36) (=23) 朝早く {起きる／*起きた} ほうが {ずっと} 楽です。
(37) (=24) 映画を見るより音楽を {聴く／*聴いた} ほうが {ずっと} いいです。
(38) お年寄りには {親切にする／*親切にした} ほうが {ずっと} いいよ。

また、否定の場合は、(39)～(41)に見るように「しないほうがいい」とは言えるが「しなかったほうがいい」とは言えない。

- (39) 明日は {行かない／*行かなかった} ほうがいい。
(40) あの人には {会わない／*会わなかった} ほうがいい。
(41) 聞いて心配するより、{聞かない／*聞かなかった} ほうがいい。

これまでの考察から、「ルほうがいい」は「あなたはAのほうとBのほうのうち、どっちにしますか?」という選択を要求する疑問文に対する答えの文型として、事態選択の要素を強く内在している。また、選択的意味のなかでも、主に発話者自身の意志的行為選択を表すため、主題化や「に」格をとることができる。

「ほう」の意味についても、本来の方向性の「ほう」の意味が強く、選択される事態の「方、側」へ視線を向けることに対してポジティブ判断あるいはネガティブ判断を与えることができる。また、程度副詞の挿入などによって、形式「ほうがいい」は「[ほうが]」と「[いい]」に分離される。この形式が、結合性が弱く分離できるということは、慣用的表現であるというより、選択的「方、側」と価値判断の「良い、悪い」という形容詞の本来の意

味がそれぞれ働いていることを示唆するものである。

4.2 一体型「[タほうがいい]」

文節内の結合力が強く、一体的構造で意味を成すとされる「[ほうがいい]」を一体型と称する。ここでは、この一体型の「[ほうがいい]」を中心に、明らかに未実現事態であるにもかかわらず「ルほうがいい」と「タほうがいい」の両形式が共に使われ、明白な意味対立を持たない「タほうがいい」について考察していこう。その際、「ほうがいい」の発話行為がいかなる役割機能を果たすのか、話者は「ル」と「タ」の対立をいかに認識するかに注目する必要がある。

- (42) 一人で医学書を読むより病院へ |行く／行った| ほうがいいですよ。
- (43) 無視されるより |嫌われる／嫌われた| ほうがいいよ。
- (44) 夏は木綿を |着る／着た| ほうがいいよ。
- (45) 映画を見るより音楽を |聴く／聴いた| ほうがいいよ。

これらの例文において、「ほうがいい」形式の前の「ル」と「タ」の意味はまったく同じなのであろうか。以下の(46)~(49)の例を見てみよう。

- (46) (=42) 医学書を読むより病院へ |行く／*行った| ほうを選びたいです。
- (47) (=43) 無視されるより |嫌われる／*嫌われた| ほうを望みます。
- (48) (=44) 夏は木綿を |着る／*着た| ほうを選びたい。
- (49) (=45) 映画を見るより音楽を |聴く／*聴いた| ほうをすすめます。

A, Bのうちどちらを選択するかという、選択余地を表す述語（例えば

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

「選ぶ、選択する、望む」などを伴うと「タ」形は不適切な文になる。その際に、「ほう」は本来の選択的意味を明確に示すようになる。実際、上記の例においては、「ほう」が項目間の比較をベースに、選択的意味を提供すると、選択余地を表す述語が結合され「タ」形は不適切となり「ル」形のみが適切と認められる。つまり、「ヲ」格を取る述語を伴うと「ル」形のみが適切と認められる。

反面、(50)~(53)のように「ほうがいい」が、「やりなさい」という指示・命令、義務を表す場合や、「賢明です、得です、無難、よさよう、吉」などの選択に対する評価的判断、または結果を思い描いて「その実現を望むアドバイス」表現として用いられると、「タほうがいい」が適切な文とされ、「ルほうがいい」の場合は許容度が低くなるといえる。

- (50) ちょっとひどいんじゃない？ 病院へ ^{|*}行く／行った_| ほうがいいよ。
- (51) 愛するからこそ無視されるより ^{|*}嫌われる／嫌われた_| ほうが気が楽です。
- (52) 蒸し暑いよ。汗をかくから木綿を ^{|*}着る／着た_| ほうが涼しいよ。
- (53) これはフード付きスタイルだから帽子を ^{|*}かぶる／かぶった_| ほうが似合います。

ここでの「ほうがいい」は、選択事項とその結果に対して話者が何らかの意見を持ち合わせている場合の表現である。話者の頭の中にはいくつかのシナリオが存在するものの、それらは同等価値のものではなく、特定のシナリオだけが重要な意味を持ちうる。この場合、「ほうがいい」は話し相手に対する個別の注意・忠告といった「アドバイス」的な用法として用いられる。例えば(50)は、「病院へ行ったら、早く直ります。その方があなたにとっていいですから、そうしなさい」のように、話者の頭の中で特定事態の結果まで

を思い描き、アドバイスするものであり、特定事態に対する評価判断を下すものである。これは、選択余地を議論するものではない。

言い換えれば、(54)と(55)に見るように、項目間の選択に関する一般論を言うときは「ルほうがいい」が使われるが、相手の個別的選択を言うときや、特定事態に対する評価判断を提示する場合は「タほうがいい」が落ち着きが良いといえる（森山 [1996] も参照のこと）。

- (54) 体の調子が悪い時には、病院へ {行く/??行った} ほうがいいと思います。
- (55) あなた顔色が悪いよ。早く病院へ {??行く/行った} ほうがいいよ。

「ルほうがいい」が、(46)~(49)の「ル方を選びます」「ルほうをすすめます」のように、事態選択事項のみを提示する形式であるとすれば、「タほうがいい」は、(50)~(53)のように、選択結果に対して話者が何らかの意見を持つ「アドバイス」的慣用表現とみなすことができる。つまり、話者がある事態に対して評価判断を持つ発話であるといえよう。

それでは、「ほうがいい」の文節内での結合性についてはどうだろうか。

- (56) ~, 病院へ行くほうが {もっと/ずっと} いいよ。
- (57) ~, 病院へ {*行った} ほうが {もっと/ずっと} いいよ。
- (58) ~, 病院へ {行く} ほうがあなたにはいいよ。
- (59) ~, 病院へ {??行った} ほうがあなたにはいいよ。

(56)と(57)の比較や(58)と(59)の比較から分かるように、「ルほうがいい」は、「[ほうが] [いい]」のように分節可能であるのに対し、「タほうがいい」は、副詞の挿入や「に」格の挿入などによって、「[[ほうが] [いい]」のように分節することが容易ではない。これは、「タほうがいい」は「ルほうがいい」

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

に比べて結合力の強い一体型の表現であり、慣用表現化されつつあるとみなせる材料の一つといえる。

ここで、「ほうがいい」の一体型には「ほうが賢明」「ほうが吉」「ほうが得」などのものも含まれる。また、「ルほうがいい」の表現についても、選択した結果に対するコメントを付け加えることによって、一体型的慣用表現としての「タほうがいい」と同様に、個別的なアドバイスのニュアンスを持たせることができる。

(60) ～，病院へ行くほうがいいです。早く直るから。

{=病院へ行ったほうがいい}

(61) 疲れて神経質なときは、映画を見るよりやさしい音楽を聴くほうがいいです。心が安らぎますから。

{=音楽を聴いたほうがいい}

(62) もう一杯飲むより、帰るほうがいいです。休めますから。

{=帰ったほうがいい}

「タほうがいい」は、形式の結合力が強く義務やアドバイスのニュアンスを持つため、「良くない／わるい」などのネガティブ表現とは馴染みにくい。

(63) *言い訳をするより黙っていたほうがよくない。

(64) *君は素直な行動をとったほうがわるい。

(65) *この本を読んだほうがよくない。

次に、発話瞬間と同時に完了になるもので、動作性がなくインターバルのない思考動詞や発話行為動詞（たとえば、思う、考える、いうなど）を取り上げてみよう。

(66)

- a 肉体労働じゃないんだ。きついというより、その、ヤバイと
|言う／言った| ほうがいいか。(文132)
- b ～、ヤバイと |いう／いった| ほうが |正しい／適切だ／適
当だ|。
- c ～、ヤバイと |いう／いった| ほうが |ずっと| 正しい。
- d ～、ヤバイと [いったら]、そのほうが正しい。
＝ヤバイという表現のほうが

(67) (例(1)とその変形)

- a 今日の私の無神論は父の教育のためではない。清教徒である
母への反抗からはじまったと |云う／云った| ほうが正しい
のだ。
- b ～、はじめたと |云う／云った| ほうが |正しい／適切だ
／適当だ|。
- c ～、はじめたと |云う／云った| ほうが |ずっと| 適切だ。
- d ～、はじめたと [云ったら]、そのほうが正しい。

上記の例においては、「ほうがいい」形式の前に「ル」と「タ」の対立がない。しかし、ここに使われている「タほうがいい」は、話し相手に対する「～しなさい。その方があなたのためになります」という意味のアドバイスの慣用的表現の典型とは若干異なっている。これらは、「ほうがいい」の述語の部分で「正しい、適切だ、適当だ」などに置きかえることが可能であり、程度副詞などが挿入できる分離型としての「[[ほうが] [いい]]」であると考えられる。

上記の例に見る「タ」形は、発話瞬間と同時に完了になる過去形としての「タ」と解釈できる。これらの種には思考動詞や発話行為動詞などが含まれる。

第4節 未実現事態に使われる「ルほうがいい」と「タほうがいい」

これまでの考察をまとめると、以下のようになる。

1) 「ルほうがいい」は一般論的事態選択について述べるものである。「ほうがいい」における「ほう」の選択的意味が強く働き、同等価値のあるいくつかのシナリオに対する選択事態に対して話者の視点に向ける役割機能を果たすものと考えられる。一方、「タほうがいい」は、個別事態としての選択に対する評価判断を表し、話し相手に対する注意・忠告などのアドバイスの慣用表現に用いられる。

また、「ルほうがいい」は、間接的アドバイスとして「望ましい」「好ましい」のニュアンスを持つ単なる話者の意見であるのに対して、「タほうがいい」は、「そうしなさい」「その方があなたのためです」といったニュアンスの直接的アドバイス表現である。すなわち、「タほうがいい」はアドバイス表現として慣用化されているといえる。

2) 「ルほうがいい」と「タほうがいい」の基本的な構造が違うといえる。すなわち、「ルほうがいい」は文節内に副詞の挿入などが可能な、結合性の弱い分離型「[ほうが] [いい]」が基本的構造をなしている。それに比べて、「タほうがいい」は副詞の挿入を許さず、二つの語句が強く結合され、慣用表現として定着しつつあるといえよう。

「ルほうがいい」が「タほうがいい」と交替可能な場合における微妙なニュアンスの違いは、このような基本的な構造の違いを内在しているからであるといえよう。

3) 「タほうがいい」が「[タほうが] [いい]」のように分離される場合は、既に実現している事態に対する評価を述べるものであり、「未実現事態の選択に対するコメント及びアドバイス」という慣用的表現とは性質の違うものである。

4) 「ほうがいい」形式前の「ル」と「タ」が交替可能な場合の微妙なニュアンスの違いというのは、「ルほうがいい」が同等価値のシナリオに対する選択余地として一般論を述べるのに対して、「タほうがいい」は特定のシナリオに価値をおき評価判断するもので、そのシナリオの完了に話者視点に移

した発話であるという違いからもたらされる。

5) 「タほうがいい」の場合、話者はメンタル・スペースの中で選択事態のシナリオについてそのシナリオの完了までを思い描いているといえる。そのため、メンタル・スペースでのシナリオの完了認識を反映する「タ」形が発話に導かれている。このように解釈すると、メンタル・スペース内で、完了認識のスペースを持つか否かが、「ほうがいい」の形式の前に「ル」と「タ」の表示を決定するといえよう。この点については節を改めて検討したい。

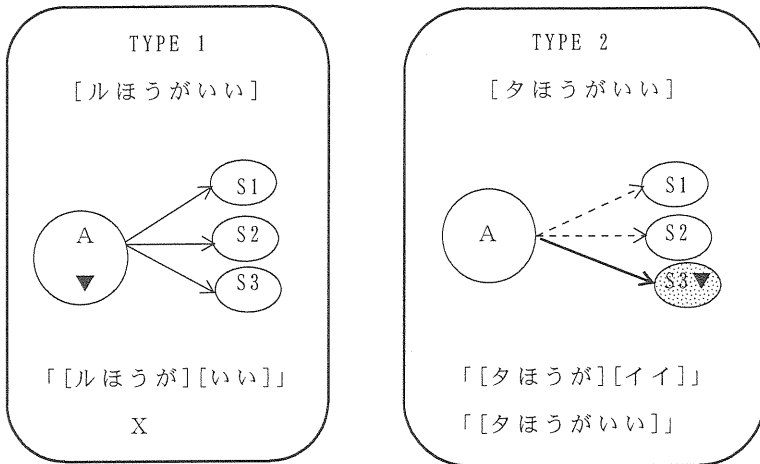
第5節 メンタル・スペースと「ほうがいい」

5.1 「ほうがいい」の認識モデル

これまでの「ほうがいい」の考察から、未実現事態に用いられる「ルほうがいい」と「タほうがいい」の両形式における微妙なニュアンスの違いは、いかなるメンタル・スペースを設定しているかによるもので、話者の完了認識の違いに起因することが示唆された。前節のまとめに基づいて、「ほうがいい」に関する話者の認識をモデル化すると図4-1のようになる。

図4-1から明らかなように、TYPE 1 は次のようないくつかの特徴を内包している。すなわち、「選択するか否か」に価値を付与している。話者の視点は、話者が発話するR（現在空間）に存在する。要するに、「選択するか否か」の一般論に対して、選択されうる同等価値のシナリオが存在する。この場合、話者の視点は発話スペースである現在空間に置かれているため、特定のシナリオに対するコメントはできず、各シナリオに対して選択肢としての価値付与しかできない。そこで、「ほうがいい」は、S1, S2, S3などの同等価値のシナリオの存在に対して、そのシナリオのほうに視点を向ける枝の役割とその枝に対する評価の機能を果たす。

一方のTYPE 2 には、次のような特徴が認められる。すなわち、心的空間内での「実現事態の評価」に対して価値付与しており、話者の視点が心



〔注：A；話者、▼；視点、Si；シナリオ空間〕

図4-1 「ほうがいい」の認識モデル

的空間内のシナリオ達成後のスペースに移っているといえる。話者は S1, S2, S3 などのシナリオに対して、同等価値を付与するのではなく、特定のシナリオのみに対して価値を付与するのである。ここでは、レベルCの心的空間内で特定シナリオを思い描いた上、そのシナリオの限界達成後のスペースに話者視点を移し、そこからそのシナリオの限界達成スペースを振り返ることで、完了が認識され、「タ」形発話を導く。

5.2 「ルほうがいい」と「タほうがいい」のスペース構築

前節で考察した「ルほうがいい」と「タほうがいい」の意味記述に基づいて、レベルCにおいて「ほうがいい」が構築するスペースの様子と「完了認識」による「タ」が心的表示される状況を考察してみよう。

(68) 早く寝たほうがいい。

この例では、「ほうがいい」という言語表現によって非現実のスペースが構築されている。構築されたレベルCにおいて、話者は「早く寝る」という仮想事態の完了を描いている。したがって、話者の仮想事態に対する「完了認識」としての心的表示「タ」が発話に導かれるのである。これを次のように書き直してみれば理解しやすい。

- (69) a 音楽を聴くのもいいけれど、やっぱり寝るほうがいい。
 b 音楽を聴くのもいいけれど、やっぱり寝たほうがいい。

上記二つの例からは、「ほうがいい」が構築するスペースの中で、「寝る」という一般の選択事態を語っているのか、それとも「寝るという行為が行われ、その結果としてもたらされるもの」としての評価を話者の「完了認識」として語っているのかの違いを読み取ることができる。前者の場合、話者視点は発話時と同じ先行スペースに置かれ（図4-2）、他の選択余地も考慮されるのに対し、後者の場合には、話者視点が発話時とは別の限界達成を振り向く後続スペースに置かれ（図4-3）、他の可能性が排除されることになる。これは、レベルCに限界達成後のスペースを含んでいるか否かによる違いでもある。すなわち、「タ」の表示は、話者の「完了認識」が表出されるか否かに関連しており、心的表示の「タ」として体系づけることができる。

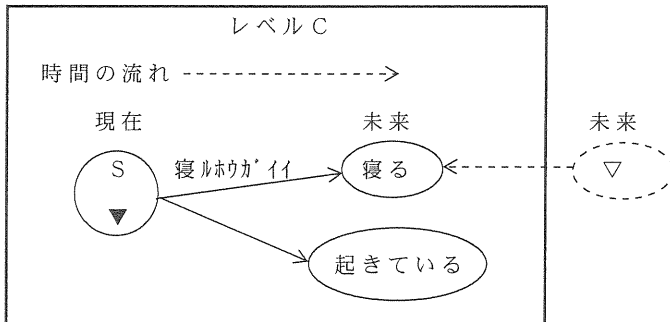


図4-2 寝るほうがいい

第6節 「ルほうがいい」と「タほうがいい」の実例分析

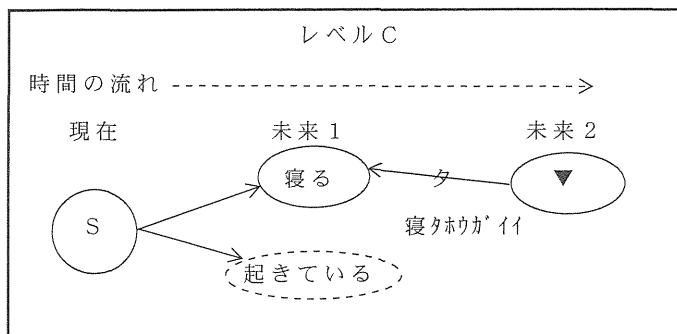


図4-3 寝たほうがいい

第6節 「ルほうがいい」と「タほうがいい」の実例分析

第3章では、近未来に限界達成しうる事態、それも限界達成に向けて進行中の未実現事態において、事態完了を認識することによって「タ」「ㇿ」の心的表示が表出されうることを考察した。

本章においては、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の比較分析から、「ほうがいい」によって非現実のスペースがレベルCに設定され、事態選択に対して何らかの話者の完了認識が働くことで、心的表示である「タ」が表出されることを考察した。さらに、「ルほうがいい」は一般的事態の選択余地を表すが、「タほうがいい」は個別事態に用いられ、注意・忠告のアドバイス表現であることを考察し、レベルCにおける「ルほうがいい」と「タほうがいい」のスペース設定に相違があることを指摘した。

本節では、実例の分析から本研究の主張を補強する。予言や占いなどは一般人にとっては未知の世界であるが、予言者や占い師にとってはなんらかの形で透視された世界であろう。注意・忠告の「タほうがいい」の実例は、未知のことに對して何らかの形で完了認識を持つことのできる占い文に頻繁に見つかることが予想される。

第4章 「ルほうがいい」と「タほうがいい」

以下、その実例分析を行う。まず、分析に使われた資料は、ランダムに選んだ主として女性誌であり、星占いコーナーのみを分析対象とした。資料の詳細は次のとおりである。

- 【1】 CanCan, 小学館, 1998 No. 201.
- 【2】 CanCan, 小学館, 1998 No. 202.
- 【3】 J J, 1998 July.
- 【4】 関西ウォーカー Chou Chou, 1998 No. 3.
- 【5】 LEE, 集英社, 1998 No. 156.
- 【6】 mcSister (エム・シー・シスター), 1998 No. 344.
- 【7】 MM マルチミュージック, 大阪有線放送社, 1998 No. 53.
- 【8】 MM マルチミュージック, 大阪有線放送社, 1998 No. 61.
- 【9】 More, 集英社, 1998 No. 252.
- 【10】 ヴァンテース, 婦人画報社, 1998 No. 106.
- 【11】 ViVi, 講談社, 1998 No. 178.
- 【12】 ViVi, 講談社, 1998 No. 181.
- 【13】 女の開運98夏 (YOUNG キュン! 6月号増刊号), 情報通信社, 1998.

これらの資料の分析から、「～ほうがいい」の例は、全部で84例見つかった。ただし、「～ほうがいい」の例として「～ほうがよさそう」「～ほうが賢明」「～ほうがラッキー」「～ほうがベター」などの例も含めている。すなわち、「[ル・タ] ほうが+a」の例を収集したのである。ちなみに、収集した全例は、まとめて付録として添付している。

- | | |
|----------------------|-------------|
| (1) 総例数 : | 84例 (100%) |
| (2) 「ルほうがいい」の例数 : | 19例 (22.6%) |
| (3) 「タほうがいい」の例数 : | 53例 (63.1%) |
| (4) 「～シナイほうがいい」の例数 : | 12例 (14.3%) |

このように総例数84例に対して、「ルほうがいい」の例数は19例で14.3%

第7節 韓国語との対照

を占めており、「タほうがいい」の例数は53例で63.1%を占めている。また、「～シナイほうがいい」の例数は12例で、14.3%を占めている。「～シタほうがいい」の否定表現は「～シナイほうがいい」となるので、その数を独立に数えた。

これらの分析結果は、アドバイス表現としての「タほうがいいの表現が圧倒的に多いだろう」という予想どおりであった。こうした結果は、「ルほうがいい」と「タほうがいい」の対立を、一般事態の選択表現とアドバイスの慣用表現の対立とみる本稿の立場を支持するものといえよう。

第7節 韓国語との対照

7.1 事態選択の前と後

日本語の「ほうがいい」に相当する韓国語には、「꼭이 낫다」「게 낫다」がある³⁾。いずれも日本語の場合同様、「～より良い」「～より優秀だ」「～より得だ」「～より有利だ」などの比較・評価の意味を含んでいる。ここではまず、日本語の選択形式「ほうがいい」の前の「ル」と「タ」の相違と関連して韓国語との対照を試みる。

韓国語においては、ルとタの対立に当たる「는」と「은(었는)」の対立は、「未実行事態に対する選択」と「実行された事態に対する評価」の対立しか表せない。言い換えると、韓国語の「은(었는)」は日本語の「タ」と違って、「ほうがいい」形式に相当する「꼭이 낫다」「게 낫다」形式の前に用いられた場合、実行された事態に対する評価しか表せず、未実現事態に対しては使えない。

(70) この本を {読む／読んだ} ほうがいいよ
이 책을 {읽는／?? 읽은} 꼭이 낫다.

(71) この本を {??読んだ(読んでいる人)} ほうがいいよ
이 책을 {읽은(읽은 사람)} 꼭이 낫다.

(70)は未実現事態としての選択を表し、(71)は実現された事態として「本を読んだ人のほう」に対する評価表現になる。

また、例(72)~(74)は、日本語の「タほう」の意味が「Aの完了結果を持ってBする」のようなタイプの場合で、「タ人のほう」の意味を表すものである。この場合、日本語は「ル」形が許容されず「タ」形のみが許容されるが、韓国語は「タ」形に当たる「은(었는)」形の許容はもちろん、「これから実行されることに対して」という意味になると、「ル」形にあたる「-는」も許容される。

- (72) (=18) このゲームのルールは {笑う／笑った} ほうが負けです
이 게임의 룰은 {웃는／웃은(웃었는)} 쪽이 집니다.

(=笑う人／笑った人)

- (73) (=19) ゴールのテープを先に {切る／切った} ほうが勝ちです
골의 테이프를 먼저 {자르는／자른} 쪽이 이깁니다.

(=切る人／切った人)

- (74) (=20) じゃんけん {負ける／負けた} ほうが掃除当番をする
가위 바위 보 에서 {지는／진(졌는)} 쪽이 청소당번을 한다.

(=負ける人／負けた人)

ここでは、「Aの完了結果について」の意味が強い場合は「은(었는)」形をとるが、一般論を述べる場合や「今から起こりうる事態」の意味が強い場合はル形に当たる「는」のほうが選択される。例えば、(72)においては、ゲームを行って「笑うようになる人のほうが負ける」、これからやるじゃんけんにおいて「負けになる」の意味として「는」形が許容される。

7.2 述部の交替

「ほうがいい」の述語を「ほうが有利だ」「ほうが得だ」などに交替可能である。

第7節 韓国語との対照

- (75) この本を [読む／読んだ] 方が有利よ
이 책을 { 읽는／?? 읽은 (읽었는)} 쪽이 유리하다.
- (76) はやく [買う／買った] 方が得です
빨리 { 사는／?? 산 (샀는)} 쪽이 득입니다.

この場合も、未実現事態に対する「タ」形「은(었는)」は許容されない。

- (77) ?あなたにはこの本を読んだ方が有利よ (事態としての読むこと)
너는 이 책을 읽은 (읽었는) 게 유리하다.
너는 이 책을 읽은 (읽었는) 쪽이 유리하다.
- (78) この本を読んだ方が有利よ (読んだ人が有利だ)
이 책을 읽은 (읽었는) 쪽이 유리하다. (읽었는 사람이 유리하다.)
*이 책을 읽은 (읽었는) 게 유리하다.

日本語の場合、(77)に見るように、完了した事態としての「ほうがいい」は許容度がやや落ち、(78)のように「事態を完了した人の側」に対する評価は許容される。反面、韓国語の場合は「完了した事態」としても「事態を完了した人の側」としても許容される。(77)において、完了した事態について韓国語で許容されるのは、事態を表す形式名詞「게 (것이)」の働きによると考えられる。このことは、(78)において、「完了した人の側」という意味の「게 (것이)」が許容されないことから推論されるのである。

以上のことから、「事態+ほうがいい」は「[[事態のほう] が [いい]]」という構造の場合は「[[事態] 쪽이 [났다]」がそれに対応し、「[[事態の] [ほうがいい]]」という構造の場合は「[[事態] [게 [났다]]」と「[[事態] [쪽이 [났다]]」のいずれも用いられるといえる。「쪽」が使われる場合は「側」の意味が強く読み取れる。

7.3 「*～する方がよくない」

日本語の場合、「ほうがいい」の否定形式「ほうがよくない」は非文になる。一方の韓国語においては、「쪽이(게) 낫다」の否定形式としての「낫지않다」は成り立たないものの、「よくない」が「わるい」の意味に使われるとすると、「쪽이(게) 못하다」と「쪽이(*게) 나쁘다」は許容される。これは、日本語の形容詞「いい-よくない(わるい)」の意味自体には比較のニュアンスが含まれていないが、韓国語の「낫다-못하다」の場合は、形容詞の意味自体に「～と比べて」という比較のニュアンスが含まれているからである。つまり、「쪽이(게) 낫다」「낫지않다」は、一般的事態の評価としての「よくない」「悪い」の意味として許容される。この場合の「는(ル)」と「은(있는)(タ)」の対立も、「未実現」と「実現」の対立であるといえる。

(79) *|買う／買った| 方がよくない

{ 사는／산(샀는) } 쪽이 못하다.

(80) *|盗む／盗んだ| 方が悪い

{ 훔치는／훔친(훔쳤는) } 쪽이 나쁘다.

(81) |買う／買った| 方が不利だ

{ 사는／산(샀는) } 쪽이 불리하다.

これらは、事態に対するネガティブ判断であるため、副詞の挿入などで分節できる。

(82) *|買う／買った| 方が遙かによくない

{ 사는／산(샀는) } 쪽이 훨씬 못하다.

(83) *|盗む／盗んだ| 方が遙かに悪い

{ 훔치는／훔친(훔쳤는) } 쪽이 훨씬 나쁘다.

(84) |買う／買った| 方が遙かに不利だ

第7節 韓国語との対照

{ 사는/산 (났는) } 쪽이 훨씬 불리하다.

7.4 非現実事態と関連して

過去に実現されていない事柄に対して「残念・悔しい」のニュアンスを持つ、非現実事態を表す用法の場合、日本語においては「ル」形は不適切で、「タ」形は許容される。しかし、韓国語は両形式とも適切な文と見なされる。

- (85) だから言ったじゃないの。君, この本 { *読む / 読んだ } ほうが良かったのに
~。너 이 책 { 읽는 / 읽었는 } 쪽이 나았는데.....
- (86) 昨日学校に { *行く / 行った } ほうが良かった
어제 학교에 { 가는 / 갔는 } 쪽이 나왔다.

この場合も副詞の挿入が可能である。

- (87) (=85) 君, この本 { *読む / 読んだ } ほうが { ずっと } 良かったのに。
너, 이 책 { 읽는 / 읽었는 } 쪽이 { 훨씬 } 나을 뻔 했다.
- (88) 昨日学校に { *行く / 行った } ほうが { ずっと } 良かった
어제 학교에 { 가는 / 갔는 } 쪽이 { 훨씬 } 나을 뻔 했다.

しかし、過去に実現されていない事柄に対して、「残念・悔しい」のニュアンスでなく、単に選択していないこと自体を述べる場合は、「ル」形が許容される。

- (89) ~ { する / した } ほうが良かった。が, しなかった
~ { 하는 / 했는 } 게 나왔다. 하지만, 하지않았다.

これまでの考察を踏まえると、韓国語の「꼭이(게) 낫다」は、日本語の「ほうがいい」が持つような個別的アドバイスのニュアンスは持たず、一般的な比較評価づけしか表せない。これは、形容詞「낫다」が比較を前提にする意味合いを強く内在しているためだと思われる。また、形式「꼭이(게) 낫다」の前の「는(ル)」と「은(있는)」の対立は未完了か完了かに左右されるといえる。

韓国語では、「ルとタ」の対立の代わりに、事態選択の比較形式としては「꼭이 낫다」を、ある特定事態の評価形式としては「게(꼭이) 낫다」を使い分けているように思われる。

第8節 む す び

日本語の「ほうがいい」には、一般的事態に対する選択的コメントとしての用法とある特定の個別事態の評価および注意・忠告などのアドバイスの用法があり、前者が「ル」、後者が「タ」という対立を示している。反面、韓国語においては、それは「誰々にとって」という個別的な事態の評価というより一般的事態の比較選択形式であると考えられる。

日本語の「タほうがいい」が未実現の個別事態に使われ、話し相手に対する注意・忠告などのアドバイスのニュアンスを持つのは、それを語る話者がメンタル・スペースを導入し、そのスペースの中である特定シナリオを思い描き、そのシナリオ事態の完了結果までを先取りして認識するからである。

反面、韓国語「꼭이 낫다」の場合は、個別事態を語らず一般事態のみを問題視する比較表現であるため、メンタル・スペースの導入が起らない。一方、未実現事態に使われる日本語の「タほうがいい」の用法に相当する「게 낫다」においては、メンタル・スペースの導入が伴うものの、メンタル・スペース内での完了認識が言語表現に完了形式「タ」を表出させる日本語とは違って、韓国語においては完了形式「있」が言語形式に表出されない。この点に関しては今後さらに検討していく必要がある。

第8節 むすび

注

- 1) 一体型, 分離型という命名は, 金水敏氏との個人談話からコメントをいただいたものである。
- 2) 森山 [1996] では, 「ほうがいい」は客観的な判断を表すため, 自分を主語化することはできないとして, 「*私はもっと本を読んだほうがいい」をあげている。しかしながら, 「ルほうがいい」の選択提示の文型に注目すれば, 主題化ができないことはない。
- 3) 「ほうがいい」形式の前の「ル」と「タ」の対立は, 連体形としての「に」と「ん」の対立に対応する。